

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 今城 靖明 所属機関名 山口大学 整形外科 役職 講師

研究要旨 OPLLにおける脊髄圧迫形態、動的变化は、発症因子だけではなく、神経所見とも関与している。とくに前屈位での評価は術前計画に重要と考えられる。

A. 研究目的

頰椎後縦靱帯骨化症の重症度、発症因子治療成績を詳細な画像因子から評価する。

B. 研究方法

OPLL 50例から患者背景、Kinematic CTミエログラフィー、MRI、X線による画像所見、神経所見、治療成績を後ろ向きに収集して解析を行った。

(倫理面への配慮)

当院のIRB承認あり(H2019-058)

C. 研究結果

発症因子はC3-4、4-5で動的因子が大きかった。頰椎アライメントは彎曲が増大すると重症化しやすい傾向がある。前屈での脊髄圧迫はBabinski徴候陽性をきたしやすい。とくに圧迫の強い症例は改善率が劣っていた。

D. 考察

OPLLにおける圧迫は脊髄前屈での増大しうる事が報告されている。後屈での圧迫に加えて、前屈位でも圧迫が代償されにくいことや、脊髄前方の障害が下肢機能悪化につながっている可能性が示唆された。

E. 結論

OPLLにおける脊髄圧迫形態、動的变化は、発症因子だけではなく、神経所見とも関与している。前屈位での評価は術前計画に重要と考えられる。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

Clin Neurol Neurosurg. 2020 Jul;194:105814.

The radiological characteristics associated with the

development of myelopathy due to ossification of the posterior longitudinal ligaments at each responsible level based on spinal cord evoked potentials

Masahiro Funaba , Yasuaki Imajo , Hidenori Suzuki , Norihiro Nishida , Yuji Nagao , Takuya Sakamoto , Takashi Sakai

2. 学会発表

①頰椎後縦靱帯骨化症の重症度および治療成績と関連する因子はアライメントにより異なる

船場 真裕, 今城 靖明, 鈴木 秀典, 西田 周泰, 藤本 和弘, 永尾 祐治, 坂本 拓哉, 坂井 孝司

日本脊椎脊髄病学会 2020

②頰椎後縦靱帯骨化症における骨化形態、画像パラメータが神経学的症状に与える影響

船場 真裕, 今城 靖明, 鈴木 秀典, 西田 周泰, 藤本 和弘, 永尾 祐治, 坂本 拓哉, 坂井 孝司

日本脊椎脊髄病学会 2020

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

2. 実用新案登録

3. その他